長崎の被爆により命を落とした幾十万の魂たちを、いかなる名で呼べばよいのだろうか。いかなる名詞を、いかなる固有の呼び名を与えれば、彼ら英霊を悼むにふさわしいのか。無垢の幼子たちまで罪のないまま、非命に倒れた英霊を、英魂たちを慰める追慕と慰霊の思いをこめ、私は『曼*茶羅！』という象徴を選んだ。

（『長崎、長崎の曼*茶羅よ』「詩的メモ」より抜粋）

＊「曼茶羅」
三千年に一度咲くと伝えられる幻の花。仏教用語で仏心を悟ること。この詩集では被爆により亡くなった魂を曼陀羅として表現している。

（2024年6月　韓国釜山自宅にて撮影）

金光子（キム・カンジャ　雅号・雪津）氏の略歴

1943年、長崎市大浦で出生。1945年8月9日、2歳の時に同市稲佐町で被爆し、同年9月に両親とともに帰国。全南光州大学校文理科大学卒業。釜山女子大学校社会科学院講師を歴任（教育歴38年）。主な作品に『海雲台 アリラン』、『恋しさの美学』、『臥牛山の里』など多数。『長崎、長崎の曼荼羅よ』（長崎文献社,2025年7月）は14番目の詩集。受賞歴として第23回尹東柱文学賞、第33回国際ペン文学賞、大韓民国郷土文学賞、韓国文学賞ほか。釜山詩人協会理事長、国際ペン韓国本部理事を歴任し、韓国原爆被害者協会代議員、『忘れられない、あの日々の証言集』（2024年12月刊行）編集主幹。

文善英（ムン・ソニョン）氏の略歴

韓国東亜大学校教養学部教授。国立釜山大学校国語国文学科卒業後、同大学院で博士号取得（専攻・国文学・現代詩）。詩人、文学評論家としても活動。1990年に韓国文学芸術新人賞。
著書には『聞き慣れた音』（詩集）、『現代詩と文化意識』、『韓国戦争と詩』のほか、共著として『韓国現代詩とパロディ』、『韓国叙述詩の詩学』、『韓国現代文学の性と売春』、『体の歴史と文学』。

長崎大学 文教キャンパス（長崎県長崎市文教町1－14）

会場　文教スカイホール
（グローバル教育・学生支援棟４階）

◆ 長崎空港から ◆
県営バス「長崎空港4番のりば」
↓
（昭和町・浦上経由長崎方面行き）
↓
「長大東門前」下車（約60分）

◆ 電車 ◆
JR「長崎駅」下車後、バスまたは路面電車利用

◆ 路面電車 ◆
「長崎駅前」
↓
（赤迫行き）
↓
「長崎大学」下車（約20分）

◆ バス ◆
長崎バス「長崎駅前」
↓
（1番系統「溝川」、「上床」、「上横尾」行き）
↓
「長崎大学前」下車（約15分）